

Blazing Soul 二次創作 まとめ

あくたたか

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

ADVゲーム『Blazing Soul』の二次創作になります。

ほのぼな日常系からB Lなど様々な話の短編まとめです。

各章によって話が違ってくるので、ご了承ください。

年齢操作、i f世界がほとんどなので、各話読む際はどうかご注意を。

目次

1	ブレスルキャラだったら〇〇ネタ	その
1		1

ブレソルキャラだつたら〇〇ネタ その1

「頭痛がします！あなたならどうしますか？」

セイギ「暫く様子を見よう。最悪頭痛薬に頼るかもしれないが……」
しかしあまり薬に頼りたくない為、軍務を終えた後は大人しくしている。

ヤマト「暫く様子見だ。だがそのうち治るだろう。」

もはや自然治癒。薬に頼る必要などどこにも存在しないのだ。

ハヤテ「頭痛だあ？んなモン本人の気力次第だぜ？とりあえず病は気から。まずは飯を食う。」

病は気から。本人の談の通りまずは食べて鋭気を養う。

サクヤ「うーん……。あ、大丈夫！ボクはこう見えても風邪は引かないから！」
と言いつつも酷くなつたら、即ダウン。うん、あまり無茶はよくないよ。

「か、傘を忘れてしまった…。」と仲の良い友人が困っていたら

セイギ「とりあえず入るといい、送り届ける。(スツ、と傘に入れる)」
典型的な友人思いな男。しかし女性相手であつたら確実に女性が悶絶。

ヤマト「……………。仕方ない、傘は貸そう。何、予備の傘ならある(とりあえず自分の傘を渡しては自分は折り畳み傘を使用)」

その無言が何気に怖いです、大佐。

ハヤテ「傘がない? だったらこれを貸してやる。…何? 俺が濡れちまうって? 気にすんな、雨も滴る程いい男って言うだろ?(ニツ、と笑つては傘を押しつける)」

雨も滴るいい男!!!

サクヤ「え? 傘ないの? だったら雨が止むまで、そこらの茶屋で雨宿りしよう! 付き合うよ!(にこにこしながら、「いいからいいから」と傘に入れる)」

しかしこの後、茶屋で食べた物は全額奢らされる。

クジヨウ「おや、傘を忘れてしまったのかい？なら私が今から雨を止ませてみよう。……なんてね。とりあえず濡れるといけなから早く入るといい。」

冗談と本気の区別がつかない。だがしつかりと家まで送る。

「この間傘貸してくれてありがとう」と言われた時にお礼の粗品を渡されたら」

セイギ「気を遣わせて済まない、ありがとう。（真顔で受け取る）」

割とそのまま素直に受け取ってくれる。だが心の内では笑っているのかもしれない。

ヤマト「礼など気を遣わずとも良かったんだがな……。はて、お前も忙しい奴だ。（溜息を盛大に吐いた後にきちんと受け取る）」

なんて言いながらさりげなく茶化す。誰かハヤテとサクヤ呼んで来て。

ハヤテ「礼だあ？…お前も変わってんな。ダチなら当然だろ？とりあえずサンキユ（一瞬理解不能そうにしているも、受け取れば笑って）」

本当に友人思い。なんだろう、涙出てきた。

サクヤ「え？お礼？またまたあ、でもありがとう！またあの茶屋に行こうね！（ばあ
あ、と笑みを浮かべてはどこか嬉しそうに）」

友人思いその2。まあ奢ったのも許してしまう。

クジヨウ「律儀だね、君は。でもありがとう。（表情を崩す事なく笑みを浮かべつつ、
粗品を受け取り）」

もはやこれしか思い浮かばない。